

かお・人・interview

2021年1月28日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
海の中道海浜公園事務所 所長

平塚勇司氏

yuji HIRATSUKA

海の中道海浜公園事務所は、海に囲まれた自然豊かな「海の中道海浜公園」と弥生時代の遺跡を学ぶ、「吉野ヶ里歴史公園」の二つの国営公園を管理している。公園のポテンシャルに違いはあるが両公園とも、九州を代表する公園として多くの方が訪れ、学び、楽しむ場となっている。公園運営に必要なのは事業管理だけではない。経営者目線、それが道路や河川の所長とは異なる。今後の取り組み、課題などについて平塚所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

新型コロナウイルス拡大に伴う緊急事態宣言の発令により、海の中道海浜公園は4月8日～5月18日まで。吉野ヶ里歴史公園は4月18日～5月10日まで閉園となりました。着任してすぐ公園を閉める調整となり、今年度の利用者数は両公園とも、例年の5割程度。今はウィズコロナ、アフターコロナに向けた準備期間と位置づけ、長期的な視点で公園の魅力を高めるための取組を実施したいと思います。



▲海の中道海浜公園上空

公園事務所長という立場は、事業主体が表に出る道路や河川事務所と違います。公園が「行政、事業者、利用者の三者全てを幸福(Win-Win-Win)にする場」となること



▲吉野ヶ里歴史公園の上空

を目指したいと思います。ここでは、水族館(マリンワールド)やホテル(ザ・ルイガンズ)、来年度から始まる予定のPark-PFI事業、民間と力を合わせて公園全体と地域の活性化を考えていきたいと思っています。

Q 九州や福岡との関わりについて

平成13年に国土交通省に入省して、最初の職場が国営海の中道海浜公園でした。九州を訪れたのはその時が初めてです。その後、本省に戻り、6年後に九州地方整備局に赴任することになり、建政部の建設専門官、都市・住宅整備課長。平成29年に再度

九州地方整備局に赴任。建政部の公園調整官を経験後、現職（海の中道海浜公園の事務所長）。九州には3回赴任し、通算8年以上も福岡に住んでいます。公務員人生の半分近くを福岡で過ごしていることになり、もはや緑もゆかりもあるところとなりました。

Q 事務所の紹介

海の中道海浜公園事務所は、福岡県の国営海の中道海浜公園と佐賀県の国営吉野ヶ里歴史公園の2つを管理しています。

事務所は4課あり、うち歴史公園課が吉野ヶ里歴史公園で勤務。

海の中道海浜公園・吉野ヶ里歴史公園は、国事務所職員(約30人)だけでなく、管理センター、水族館(マリンワールド)、ホテル(ザ・ルイガンズ)、マリーナ、青少年海の家等の園内施設の運営にかかる事業者(従業員約700人)が協力して運営し、年間約310万人(海の中道:240万人、吉野ヶ里:70万人)の方にご利用いただいています。

国土交通省の仕事としては特殊です。構造物を作って管理するというより、公園のポテンシャルをいかに引き出して多くの方に楽しんでもらうか、そのためのパートナーとして民間事業者がいかに気持ちよく運営してもらうか、という経営者のような視点で仕事することが多いと感じます。実際に私たちが整備した遊具で楽しそうに遊んでいる子ども達を見ると、仕事の励みになります。それだけでなく、公園で働くスタッフの方々もやりがいを持って、楽しみながら仕事ができる環境をつくっていくこと、それが国事務所の仕事だと思います。

▼水族館(マリンワールド)

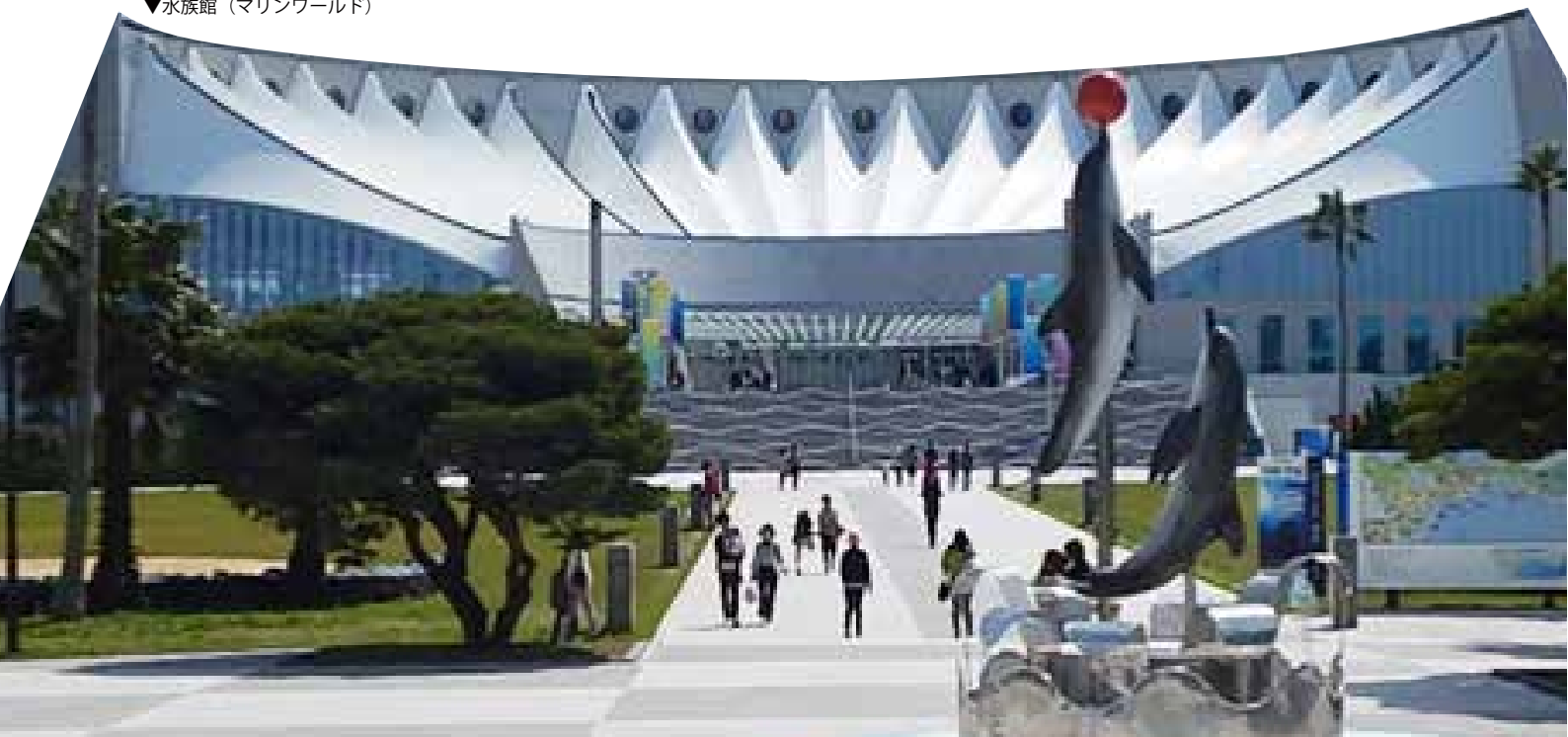


▲うみなかビジョンの10年後の公園イメージ例

Q 今年度の事業概要について

海の中道海浜公園は、昨年4月に「森の池」というマツ林を主体としたエリアが新たにオープンしました。今後は未供用区域である玄界灘側海浜部と博多湾側海浜部の整備を推進しつつ、既に供用している区域の魅力向上のための再整備を同時に進めていくことになります。優先順位をつけながら、園内の事業者とも一体となって進めるため、有識者、民間事業者、地方公共団体、国をメンバーとする協議会(国営海の中道海浜公園魅力向上推進協議会)を今年7月に設置。現在、海の中道海浜公園の概ね10年後に向けたビジョン「うみなかビジョン2030」の今年度中の策定に向けた協議を進めています。

また、来年度は都市公園の新しい官民連携手法であるPark-PFI事業により、民間事業者が整備・運営する新たな施設がB地区(博多湾側)にオープンする予定です。博多湾を臨む開放感のある場所での宿泊、オールシーズン楽しめる大人向けの立体アスレチックがメインであり、滞在型レクリエーションの拠点という新たな魅力が公園に追加されることとなります。





大人向けエリアやフォトジェニックな場所の提供、食のこだわりなど、公園は子供が利用するというイメージから脱皮していく必要があると思います。

▲Park-PFI 事業イメージ

吉野ヶ里歴史公園は、平成 28 年に整備事業自体は終了していますが、弥生時代を彷彿とさせる本物にこだわった復元建物を引き続き維持・更新し、それを活かしたイベントの充実などによりその価値を高めたいと思います。これまでは、修学旅行や観光を目的として来園される方が多く、公園利用者の半数は九州以外から来ていました。

長期化しているコロナ渦を考えると、すぐに広域的な観光需要は回復しにくいでしょう。まずは、近隣の施設等とも連携して近場のマイクロツーリズム等の需要の取り込みを図りたいと考えています。



▲海の中道海浜公園で新たに供用した「森の池」



▲小学生で賑わう吉野ヶ里歴史公園

もちろん、ツーリズムとして成立するためには、周遊してもらう必要があります。例えば、吉野ヶ里歴史公園は、佐賀県や吉野ヶ里町等との連携が活発で、周辺の観光施設等とのスタンプラリーなども展開しています。エリアとして総力を挙げて魅力を発信していくことが「また来たい」と思っただけのために重要。海の中道海浜公園も、「うみなかビジョン」の策定を機にこれまで以上に地元との連携を強化していきたい。これまでも近くの志賀島とのサイクルツーリズムなどに取り組んできたが、健康志向の高まりなども追い

風に観光資源をどう活用できるか、周囲との連携が今後のカギになると思います。

Q 都市公園とマイクロツーリズム

社会状況が内向きになっているからこそ、自然や身近な公園が見直されています。運動やキャンプ、屋外のレクリエーションなど、特別なことをしなくても、緑に触れる環境に身を置くことでストレスが軽減されます。だからこそ、都市公園を中心としたマイクロツーリズムに注目してほしい。近場への小旅行は新たなスタイルになりつつあります。

Q 地域との連携・協働について

公園は地域の方の理解と協力があって成り立っています。地域のボランティアの方が公園内で植樹して森を育てるなど公園の整備にも協力いただいていたたり、公園の運営やイベントの実施を手伝って頂いたり色々な形で公園を支えて頂いています。

また、神埼そうめん祭り・吉野ヶ里ふるさと炎まつり



「都市公園のトリセツ」を出版

国も自治体も公園専門の職員は少ないため、道路や河川など他分野の方が公園を整備、管理することが一般的です。そこで、都市公園法の規定や運用の習熟に苦労している現場の負担を軽くするため、公園管理の入門者向け教科書として昨年 7 月に出版したのが「都市公園のトリセツ」です。法律改正に携わった経験と現場のニーズとを結びつけ、現場で役立つ本を目指しました。



日常が戻るには、まだ時間がかかりますが
 安心安全を念頭に、精いっぱいサポートしていくのが
 仕事だと思っています。

▲海の中道海浜公園のネモフィラ



▲特定非営利活動法人はかた夢松原の会によるマツの植樹



▲吉野ヶ里ふるさと炎まつり

など、地域の祭りの場、交流の場としての機能も担っています。引き続き地域と連携して一緒に公園を育てていくとともに、公園としても地域が元気になるよう、公園を拠点とした地域の観光や活性化に、より一層取り組んでいきたいと思っています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

どの業界も、技術や想いを継承するには人材育成が大事です。新技術が生まれても、それを使いこなせる環境整備が間に合わなければ本末転倒です。建設業界は道路、公園等のインフラを整備することで人々の生活を支えるとともに、ひとたび災害が発生すれば、インフラの円滑な復旧等により人々の命を守る重要な産業です。今後は、DX（デジタルトランスフォーメーション）など、ものづくりの構造的な変化が必要となると

もに、働き方・職場環境も変えていく必要に迫られています。女性活躍や若手の担い手の確保などを推進していかなばなりません。変化にうまく対応して、企業の成長の源泉である、人と技術を育ててほしいと思います。

Q 趣味や健康法について

テレワークの機会が増え、運動不足になりがちなので、できるだけ体を動かすよう気を使っています。そのための日課は、自転車通勤です。自宅から事務所の片道40分の道のは景色もすばらしく、抜群のサイクリングロードです。また、趣味と実益も兼ねて、機会があればキャンプも楽しみます。

座右の銘は「やってみせ、言ってきかせて、させてみて、誉めてやらねば、人は動かじ」です。これは、大学時代に読んだ司馬遼太郎の「坂の上の雲」で山本五十六が語る言葉です。その当時は「すごいなあ」くらいの感想でしたが、いざ自分が管理職になると、この言葉の意味が深く入りました。自分自身を含めて、成長するために必要なこと、言葉や行動が改めて考えさせられます。

プロフィール



出身地：静岡県三島市
 生年月日：昭和50年5月3日（46歳）
 H13年4月 国土交通省入省
 （国営海の中道海浜公園事務所
 調査課配属）
 H14年4月 都市局 公園緑地課
 H19年4月 九州地方整備局 建設部 建設専門官
 H21年4月 建設部 都市・住宅整備課長
 H23年4月 国営昭和記念公園事務所 副所長
 H25年4月 国土政策局 国土情報課
 H27年4月 都市局 公園緑地・景観課
 H29年4月 九州地方整備局 建設部 公園調整官
 R2年4月 現職

著書：「都市公園のトリセツ」（学芸出版社）